

事業概要

(東京都：(都)補助第26号線)

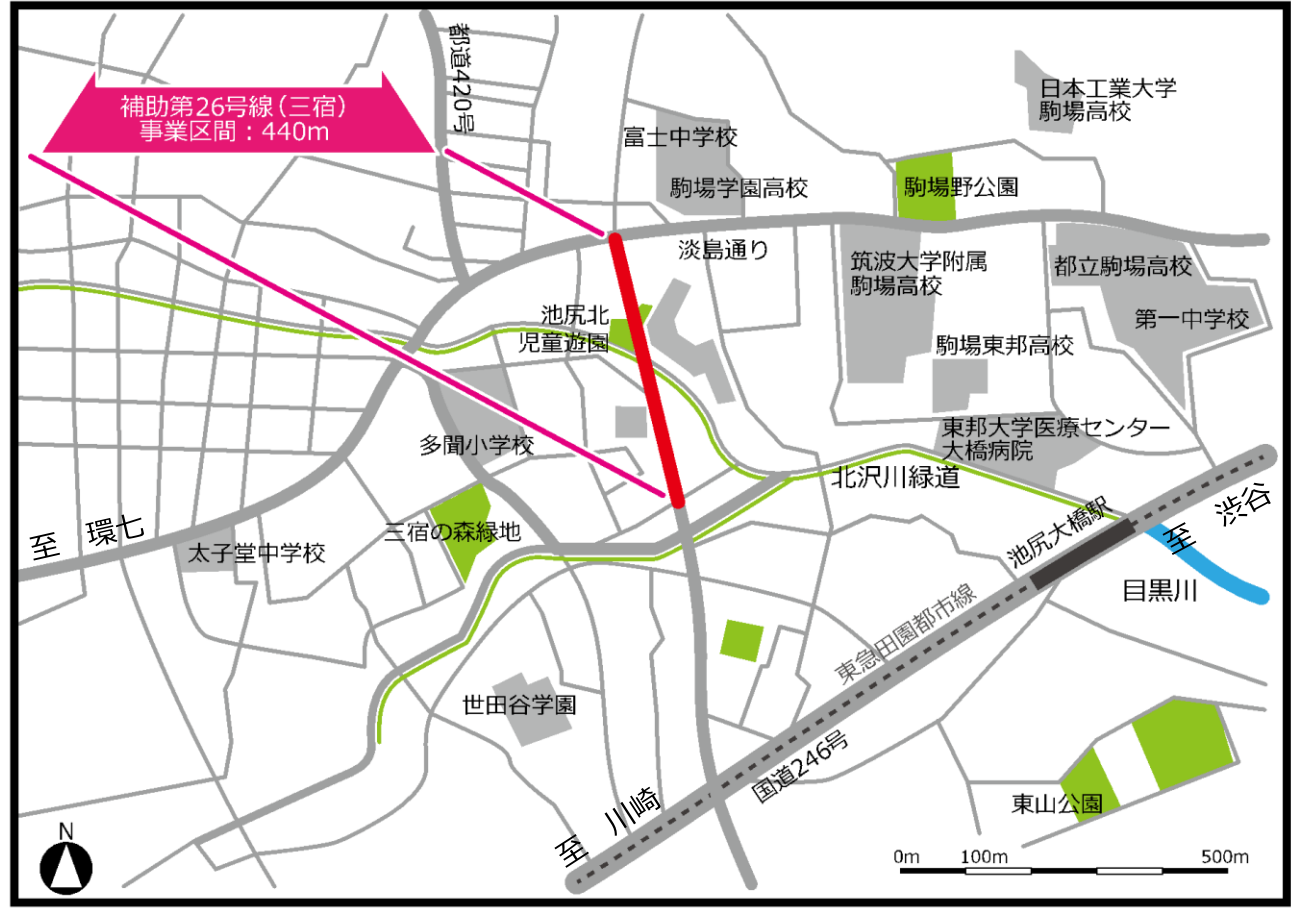
応募No.	9		
事業主体	東京都	事業箇所	東京都世田谷区
応募者名	東京都第二建設事務所		
ふりがな 事業名称	とうきょうとしけいかくどうろ ほじょだい26ごうせん(みしゆく) せいびじぎょう 東京都市計画道路補助第26号線(三宿)整備事業		
事業概要 (400字以内)	<p>本事業は、品川区東大井一丁目地内から板橋区氷川町を終点とする延長約2.2kmの都市計画道路補助第26号線のうち、世田谷区三宿二丁目地内から池尻四丁目地内までを結ぶ、事業延長約0.4kmの道路整備事業である。また、本区間は平成24年に特定整備路線に指定され、市街地の延焼を遮断するなど、整備地域の防災性の向上を図る都施行の都市計画道路である。</p> <p>本路線は、木密地域かつ丘陵地形に新しい道路を通すこと、また、沿道建物と計画道路との間に高低差が多数生じる状況であった。このため、地域住民の不安を少しでも払拭すべく、用地取得時に高低差処理について丁寧な説明を行い、工事着手時には説明会を開催し、事業内容の理解に努めた。</p> <p>これらの取り組みを進め、令和4年10月27日に交通開放を行った。これにより、市街地の延焼を遮断するなど、地域の防災性向上に大きく寄与し、また、南北方向の交通の円滑化にも貢献している。</p>		
事業規模	事業延長(km)	約0.4km	
	幅員(m)	約20.0m	
	事業期間(和暦)	平成20年度～令和5年度	
	事業費(億円)	約98億円	
受賞歴	有・無	無	
URL	https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jimusho/niken/doro-seibi.html		

事業位置図

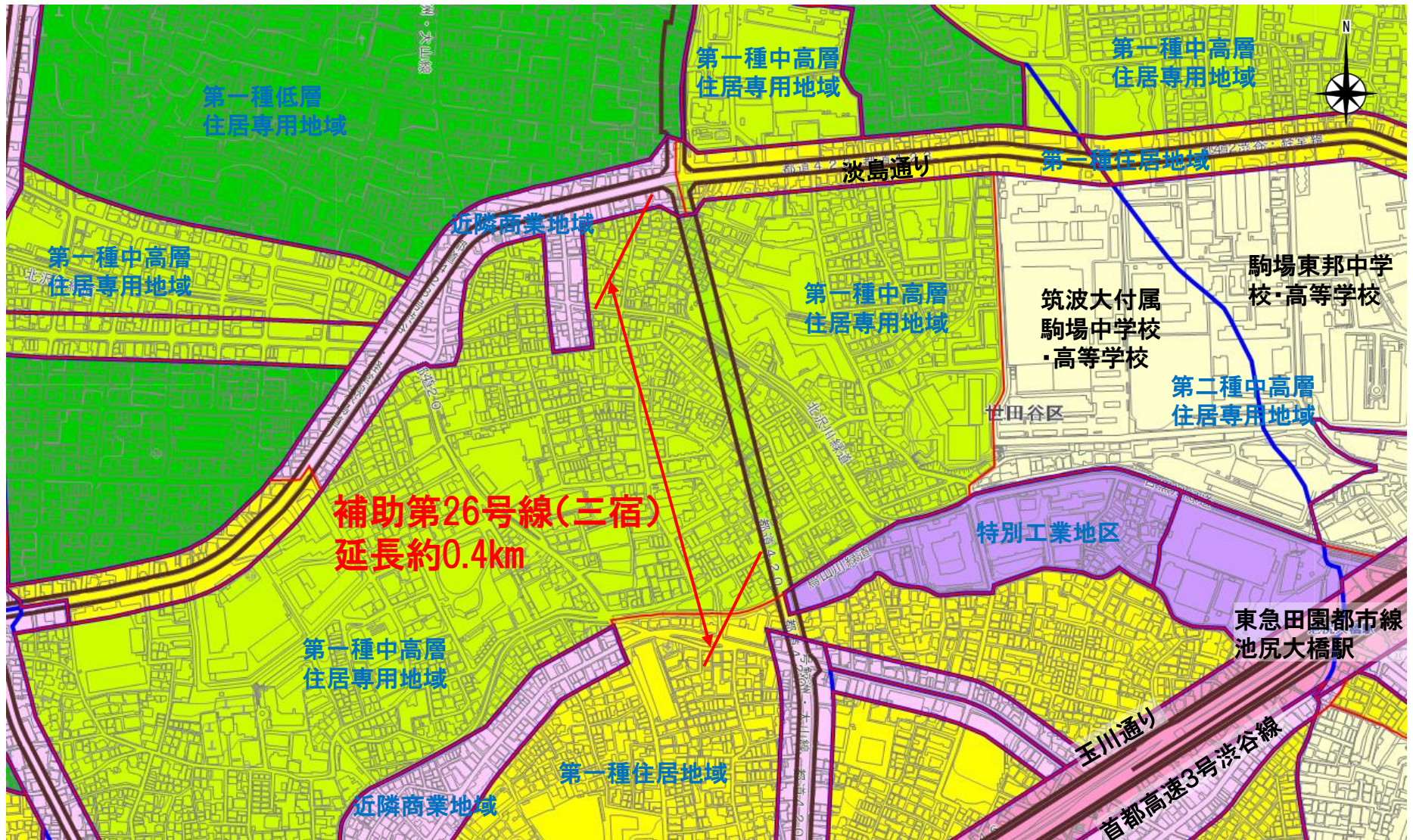


- 凡例
- 放射道路
 - 環状道路
 - 補助道路

補助第26号線全体図



都市計画図(用途地域図)



路線全体の進捗状況

補助第26号線(全線)

- ・品川区東大井一丁目～板橋区氷川町
- ・延長 約22.4km

《延長約22kmのうち12カ所(約6km)で事業中》

延長：約22kmの事業状況

完成延長約：約11km

概成延長約：約6km(事業中1km)

現道なし：約5km(事業中5km)(※補26三宿)

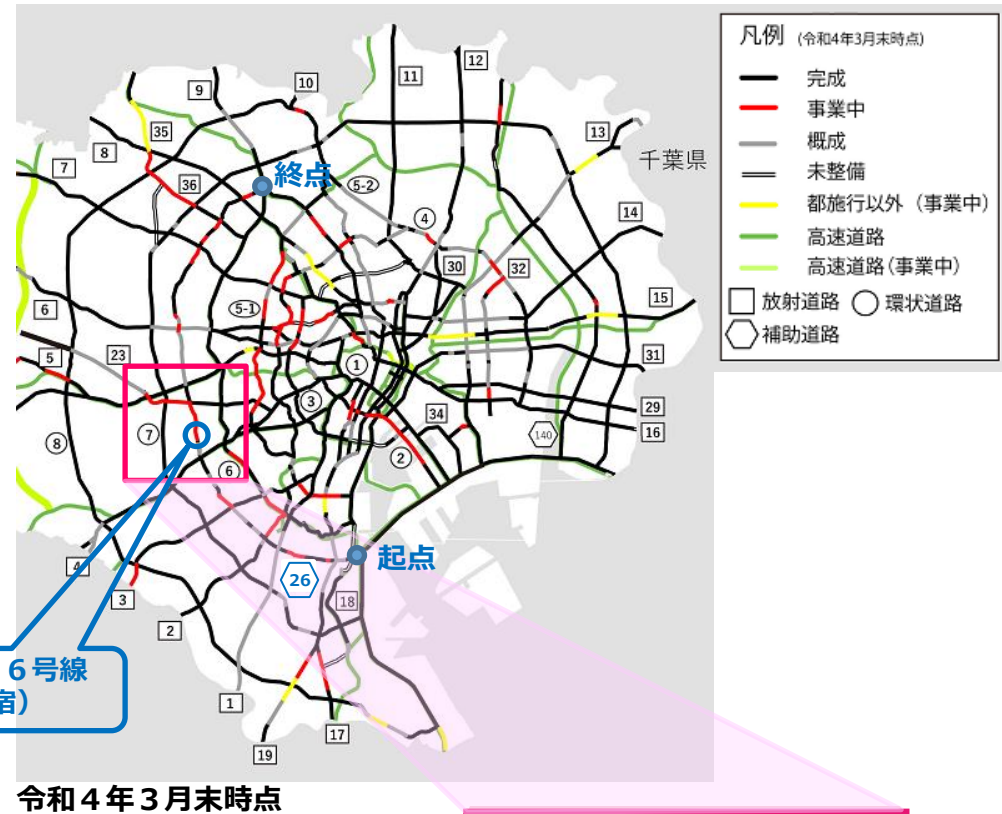
【補助第26号線(三宿)・事業経緯】

昭和21年 4月 都市計画決定

平成20年12月 事業認可取得

平成28年 6月 工事着手

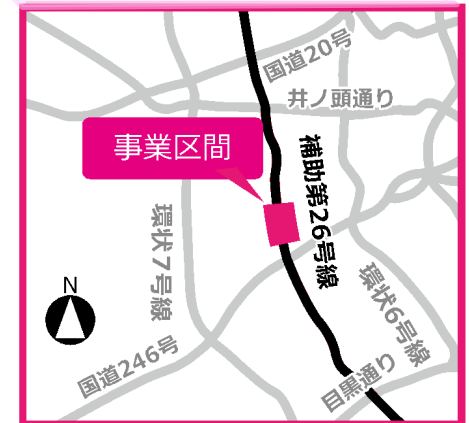
令和 4年10月 交通開放



【路線概要】

本路線は、環状第6号線と環状第7号線の間に位置しており、補助線でありながら、広域的な道路ネットワークを形成する重要な路線である。

本区間においては、この区間が開通することにより、延焼遮断帯の形成、緊急車両の通行確保、電線類の地中化による地域の防災性の向上、加えて周辺道路交通の円滑化、生活道路へ入り込んでいた通過車両の適切な本線への誘導などのため非常に重要な路線である。



路線全体の進捗状況

特定整備路線 事業概要

目標：2025（令和7）年度 全線整備
【28区間（38箇所）25km】

■ 整備効果

- 延焼遮断効果
- 震災時の安全な避難路確保
- 緊急車両等の通行路確保、
救助・救援活動の円滑化

補助第26号線（三宿）

平成24年6月 特定整備路線指定

特定整備路線とは

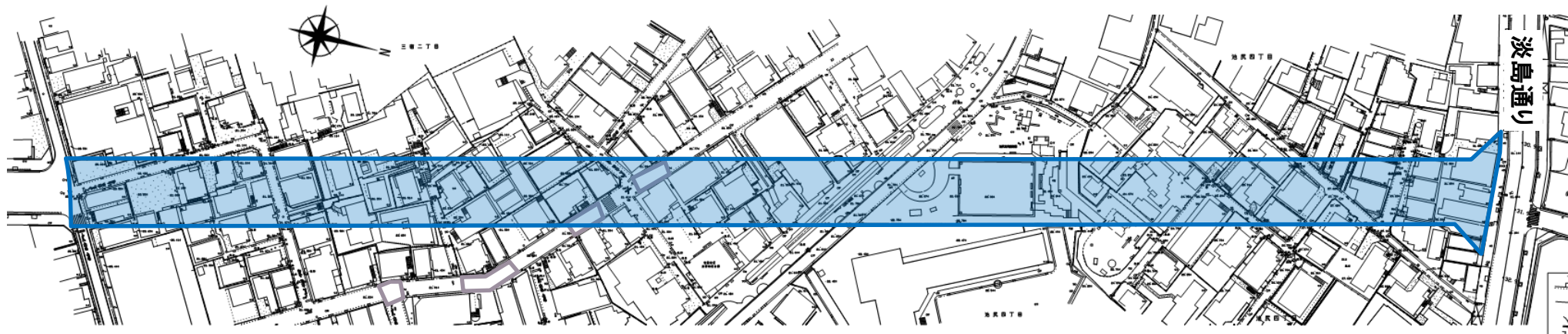
市街地の延焼を遮断するなど、整備地域の防災性の向上を図る都市計画道路となっており、事業効果として大規模な市街地火災に対して延焼を遮断するとともに、避難路や緊急車両等の通行路となるなど、地域の防災性向上に大きな役割を果たす道路



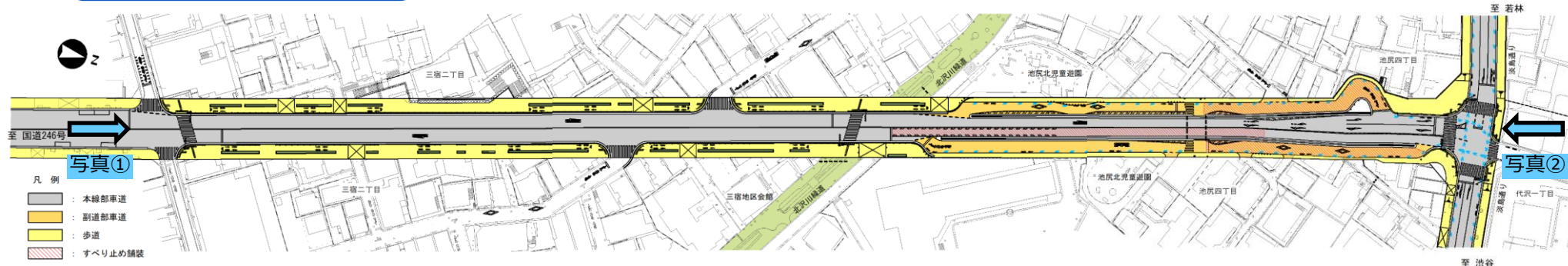
特定整備路線の箇所図

平面図

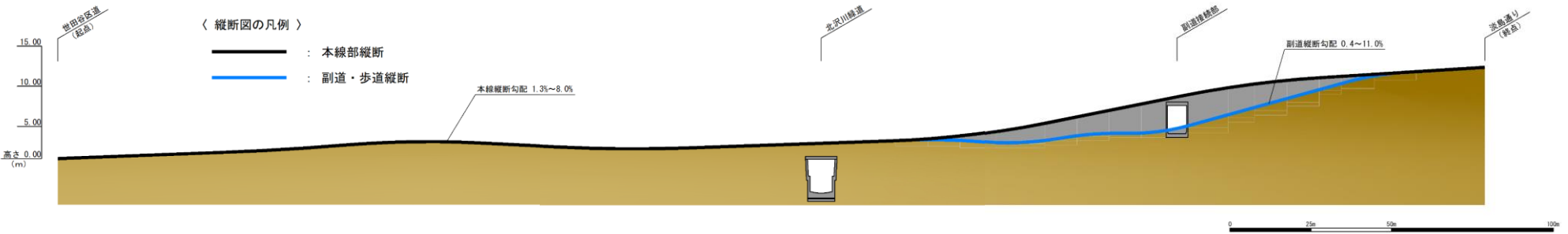
事業前



事業後

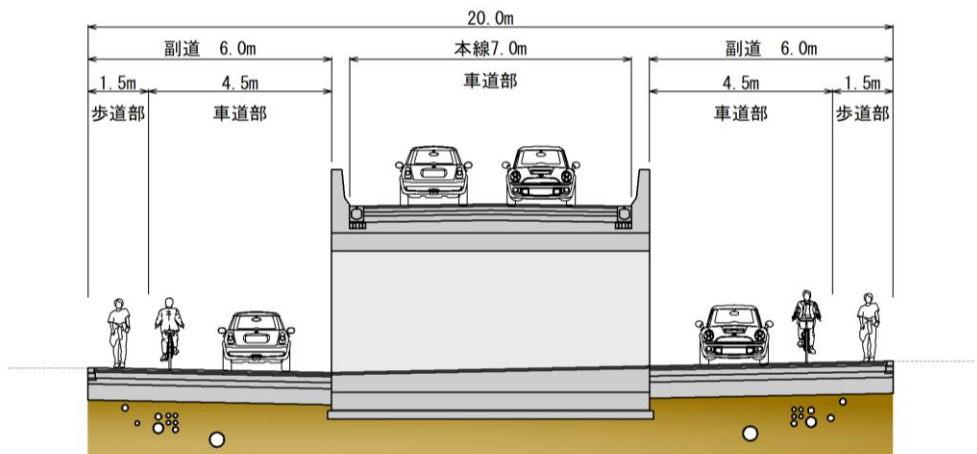
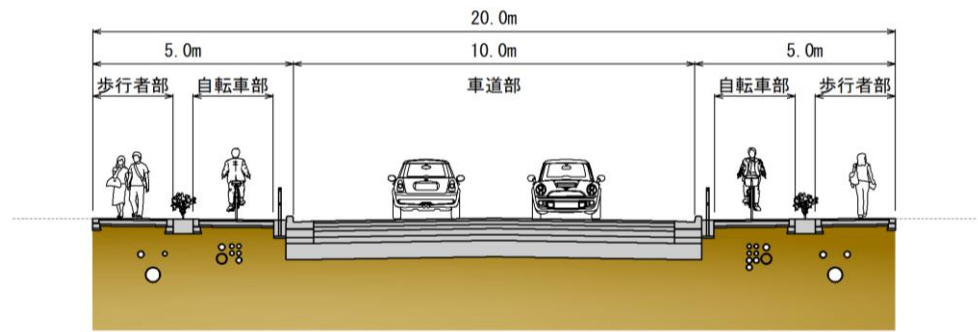


縦断図



横断図

(副道横断部)



副道 A

副道 B

事業前写真



2013年7月撮影

写真①



事業後写真

(東京都：(都)補助第26号線)



2023年7月撮影

写真①

写真②



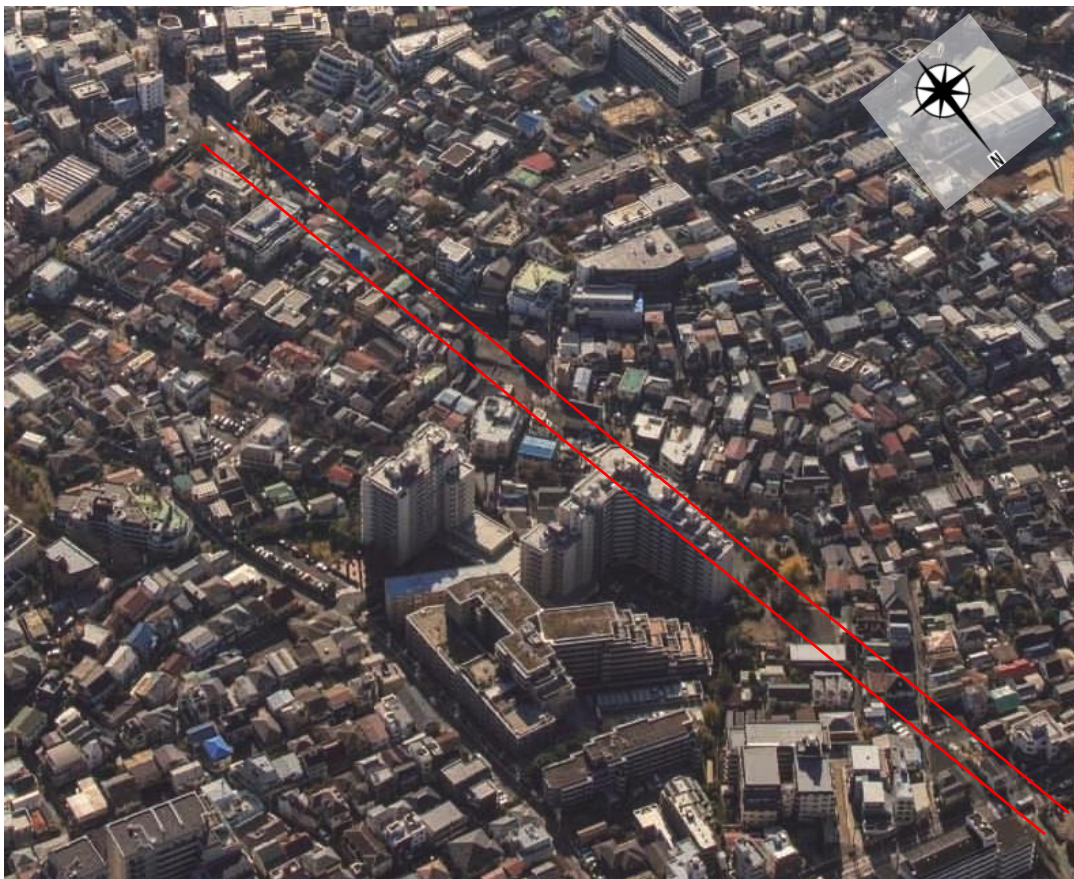
2013年4月撮影



2022年10月撮影

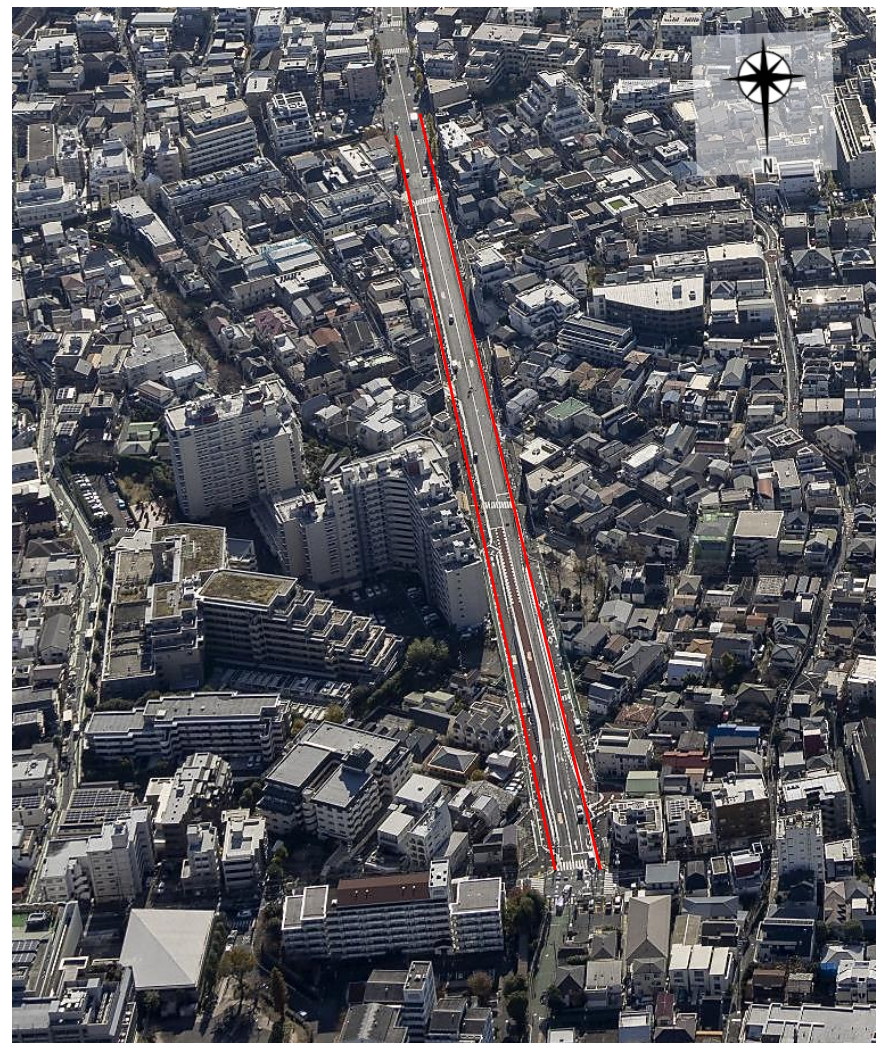
写真②

事業中航空写真



2015年2月撮影

事業後航空写真

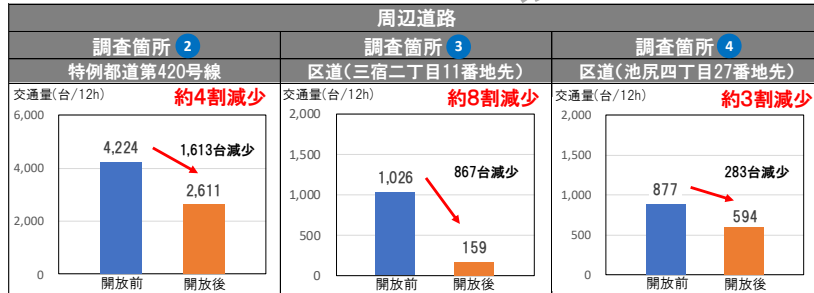
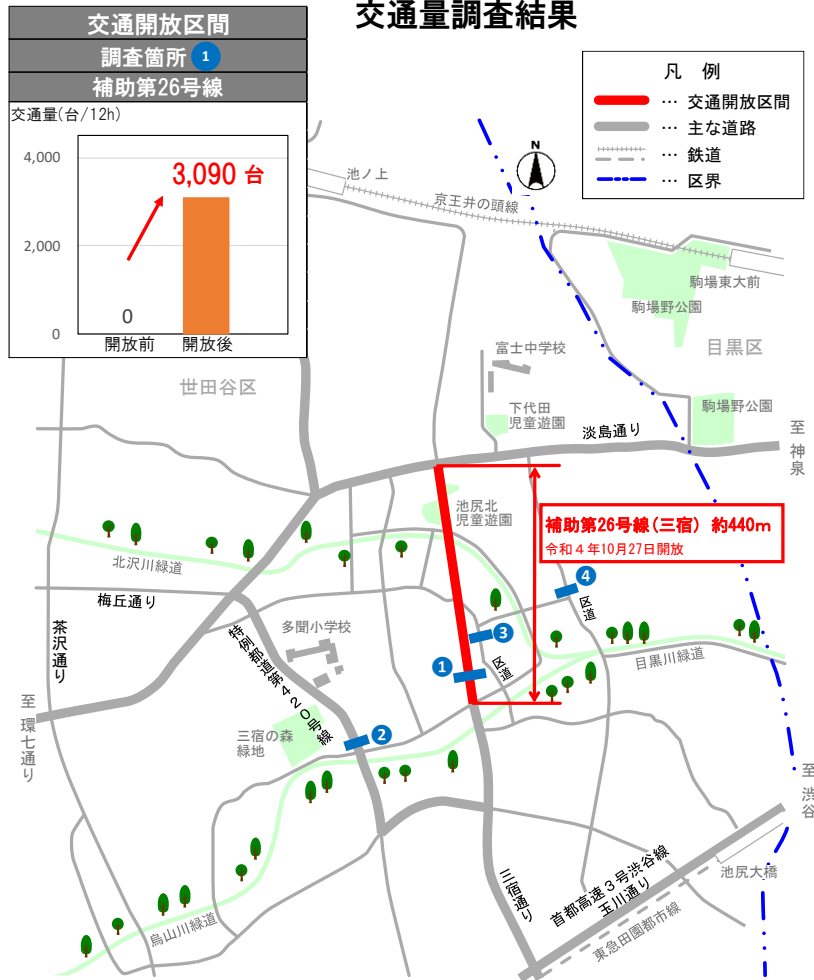


2022年11月撮影

事業効果アピール資料

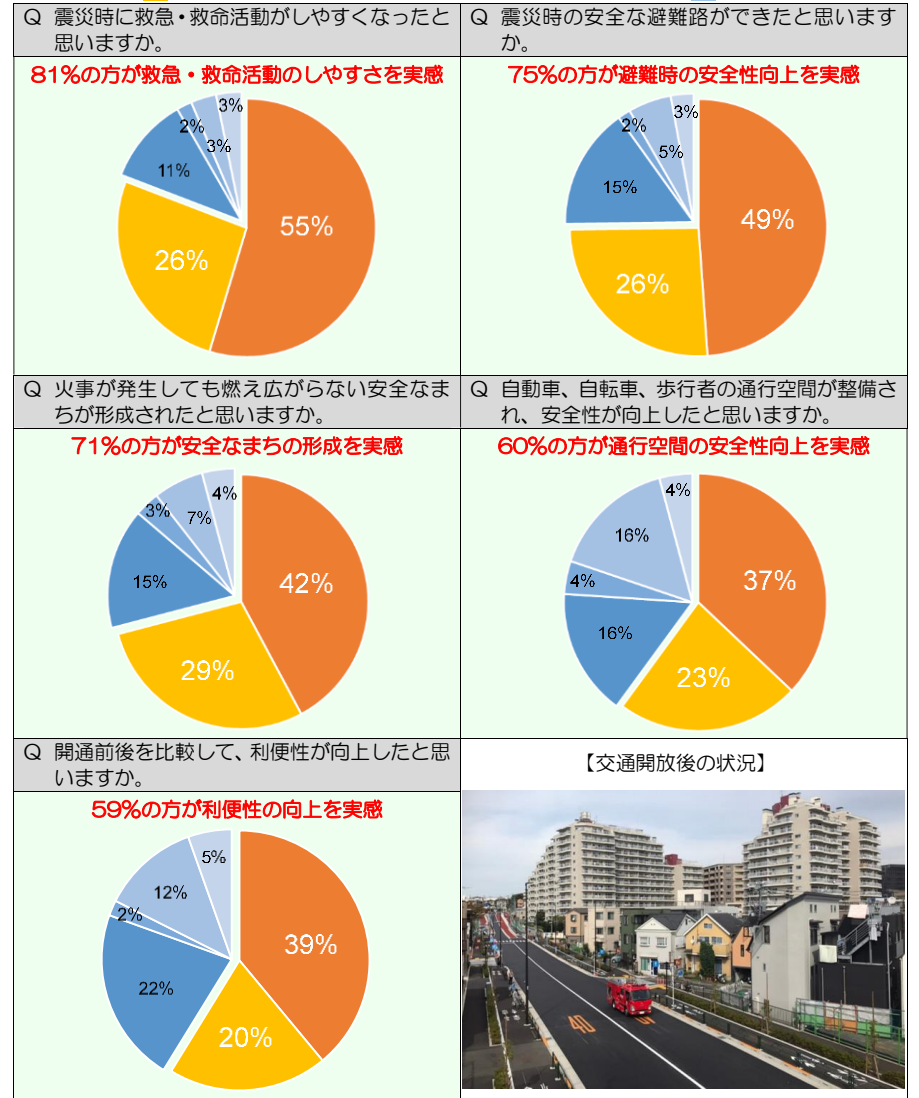
(東京都：(都)補助第26号線)

交通開放区間の沿道の方や消防署等を対象にアンケート調査を実施
(回答数313)



調査日時 開放前：令和3年12月23日(木)7:00~19:00
開放後：令和5年4月27日(木)7:00~19:00

【凡例】
 ■ そう思う ■ どちらかというと思う ■ 変わらない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答



事業効果アピール資料

○周辺道路の交通量が減少

- 近隣の小学校前の都道では、交通量が約4割減少
- 本区間の近隣の狭隘な区道では、交通量が約8割減少
- 本区間では、交通開放から約6か月後の時点で約3,000台/12時間の車両が通行

○利用者（地域住民や消防署等）が整備効果を実感

- 震災時の救急・救命活動のしやすさ、安全な避難路の確保、燃え広がらない安全なまちの形成による地域の防災性向上を近隣住民の多くの方が実感
- 自動車、自転車、歩行者の通行空間が整備されたことによる安全性の向上や、淡島通りから玉川通りまでの南北方向が直線でつながったことによる利便性の向上も多くの方が実感

○アンケートによる自由意見

- 南北方向に行き来しやすくなったことにより、救急出場及び消防活動がしやすくなった。(消防署)
- 淡島通りから玉川通りまでが直線でつながり、車だけでなく徒歩での通行も大変便利になった。

事業効果アピール資料

○木造住宅密集地域の改善

- 避難路や緊急車両等の通行路確保、救助・救援活動の円滑化
- 延焼遮断帯が形成され市街地の延焼を防ぐ
- 無電柱化により電柱倒壊による道路閉塞を防止



上空から本区間終点(北側)方向を望む

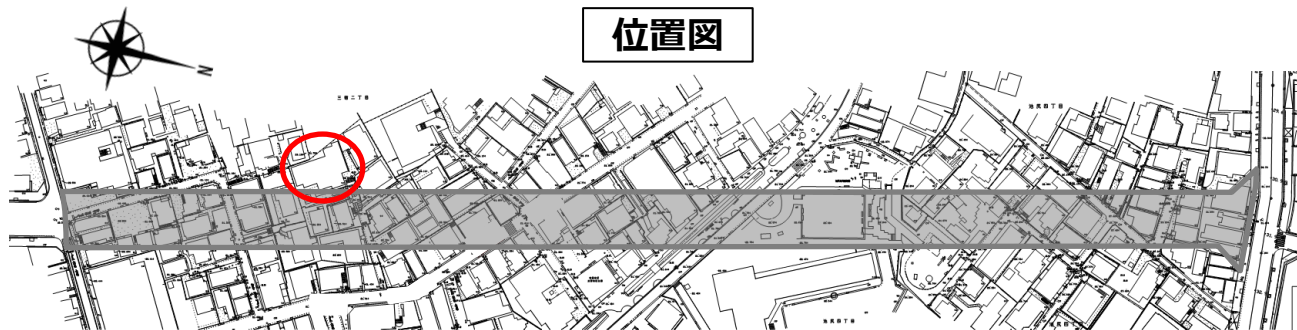


無電柱化により電柱倒壊による道路閉塞を防止

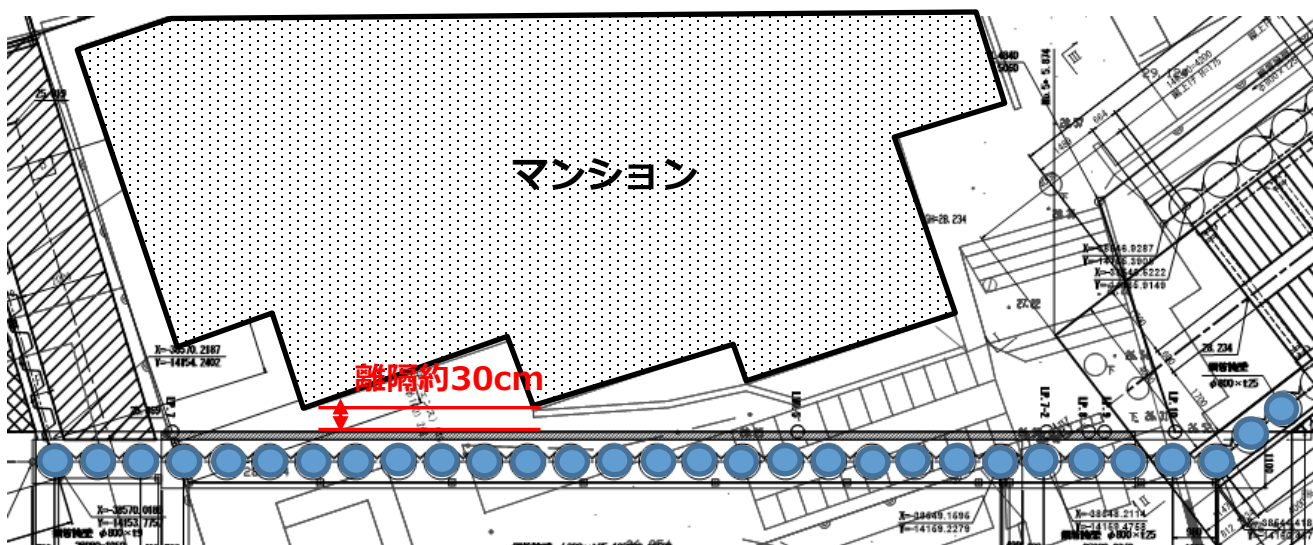
苦労や工夫等アピール資料

(東京都：(都)補助第26号線)

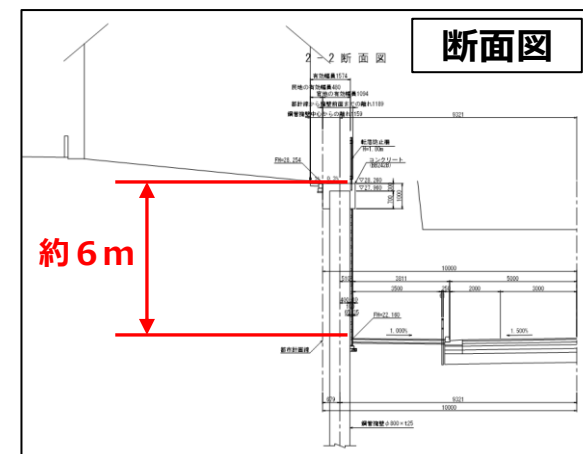
位置図



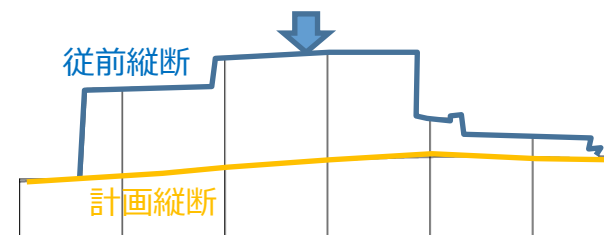
平面図



断面図



マンション付近の縦断図



- 高低差処理に対する不安払しょくのため工事説明会を実施し、特に不安を示す方には個別訪問し高低差処理方法等の説明を行った。
- 当該地以外の高低差処理ではプレキャスト擁壁を活用するなどし、品質確保や工期短縮を図った。
- また、住民の車両出入りの調整や地元町会等へ丁寧な工事内容の説明を行い、時間をかけて地域住民の不安を払しょくすることに努めた。
- 離隔が小さいなか、住民の導線などを確保しつつ日常生活への影響を最小限にして施工



受賞歴・報道資料

TV報道、受賞歴 等 なし